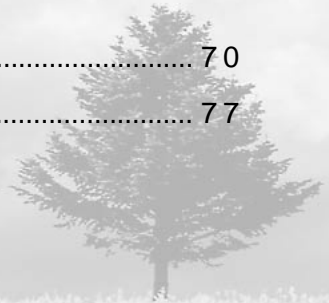


3

パソコンを持ち歩く

パソコンをバッテリー駆動で使用する時の、
バッテリーの使い方について説明します。

- | | | |
|----------|------------------|----|
| 1 | バッテリーを使う | 70 |
| 2 | バッテリーを節約する | 77 |



1 バッテリーを使う

バッテリーを充電して、または充電したバッテリーパックと交換して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

ご購入時には、バッテリーはフル充電されていません。

本製品をはじめてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

☞ バッテリーの充電 ☞ 「1章 4 バッテリーの充電」

☞ バッテリーパックの交換 ☞ 「本節 4 バッテリーパックを交換する」

また、本製品には標準添付のバッテリーパックのほかに大容量バッテリー（別売り）を取り付けて使用できます。

☞ 大容量バッテリー ☞ 「4章 8 大容量バッテリーを使う」



メモ

・大容量バッテリーパック（別売り：PABAL001）も使用できます。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリー充電量を確認しておかないと使用中に充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて電源コードを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。


● Main Battery □ LED で確認する

ACアダプタを接続し、Main Battery □ LED が緑色に点灯していたらフル充電の状態です。オレンジ色に点灯している場合は、バッテリーパックの充電量が減ってきていると考えられます。

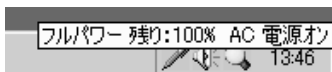
バッテリー駆動で使用しているときに Main Battery □ LED がオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

☞ Main Battery □ LED ☞ 「1章 4-3 バッテリーに関する表示」

● アイコンで確認する

タスクバーの省電力アイコン () の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



バッテリー駆動で使用している場合



(表示例)

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。




メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・東芝省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

② 時計用バッテリー

本製品には取りはずし可能なバッテリーパックのほかに、内蔵バッテリーとして、時計用バッテリーがあります。時計用バッテリーは、内蔵時計を動かすためのものです。

時計用バッテリーの充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用可能です。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時間
ACアダプタを接続している (Power  LED が点灯)	10 時間以上



メモ

- ・時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用している場合は、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

③ バッテリーの使用時間

電源として使われるバッテリーの使用時間は、充電量や使用状態により差があります。



注意

- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの容量に十分注意してください。

バッテリー (バッテリーパック、時計用バッテリー) を使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続して、一度全バッテリーを充電してください。

● バッテリー駆動での使用時間

バッテリー駆動での使用時間は、本パソコンの使用環境によって異なります。次の数字は目安です。

充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	標準 バッテリーパック	標準バッテリーパックと 大容量バッテリーの両方
ロングライフ	約 1.7 時間	約 7.3 時間

(注) 当社オリジナルプログラムで計測

⇨ 大容量バッテリーについて ⇨ 「4章 8 大容量バッテリーを使う」

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリーは自然に放電します。この場合も放置環境などに左右されますので、放置時間は目安として参考にしてください。

フル充電したバッテリーパックをパソコン本体に取り付け、電源を切った状態で放置した場合、放電しきるまでの時間：約 18 日間



お願ひ

- ・スタンバイ機能が有効の場合、バッテリーの取りはずしはしないでください。取りはずすとスタンバイ機能が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・スタンバイ機能が有効の場合、放電しきるまでの時間は約 2 日になります。



メモ

- ・休止状態が有効の場合、バッテリーパックをパソコン本体から取りはずしておく、バッテリーを使用できる時間は長くなります。

● バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリー充電量の減少が進むと、パソコン本体は次のように警告します。

Main Battery LED がオレンジ色の点滅を始める

警告音が鳴る

この場合はただちに AC アダプタを接続してください。

ご購入時は、休止状態を実行して電源が切れます。引き続きバッテリー駆動で使用するときは、バッテリーを充電してください。




お願ひ

- ・AC アダプタを接続してバッテリーを充電しないと、データが消失するおそれがあります。



メモ

・長時間使用しないでバッテリーが自然に放電してしまったときは、警告音でも Main Battery  LED でも知ることができません。



お願い

- ・パソコン本体をバッテリー駆動で使うときは、定期的に充電してください。
- ・ACアダプタをコンセントにつなげたままで放置しないでください。
- ・バッテリーパックは長期間使用すると充電機能が低下します。これはバッテリーの寿命ですので、別売りのバッテリーパックと交換してください。

④ バッテリーパックを交換する

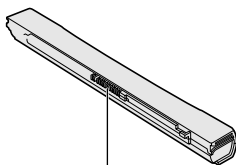
本製品には標準でバッテリーパックが取り付けられています。このバッテリーパックは着脱可能で、約 500 回程度の充電をすることができます。長期間の使用の後、充電機能が低下するようになったら、別売りのバッテリーパックと交換してください。この別売りのバッテリーパックの取り扱いとは標準装備のバッテリーパックとまったく同じです。

このパソコン対応の製品以外のバッテリーパックは使用しないでください。

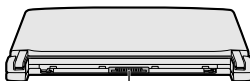


注意

- ・バッテリーパックの電極や、バッテリーパックを取り付けるパソコン側の電極をショートさせないでください。また、バッテリーパックをバックなどに入れて持ち運ぶときは、ビニールなどに包んで、電極が金属にふれないようにしてください。電極がショートすると発熱、発火などのおそれがあります。
- ・バッテリーパックを加熱したり、分解したり、ショートさせたり、火の中へ投入したりしないでください。破裂や火災のおそれがあります。
- ・バッテリーパックをすてる場合は、ショート防止のため、電極に絶縁テープを貼るなどの対策をこうじてください。そのままの状態ですてると、破裂や火災のおそれがあります。



バッテリーパックの電極



バッテリーパック用電極

● バッテリーパックの取りはずし / 取り付け

⚠ 警告 ・バッテリーパックは、必ずこのパソコン対応の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。使用済みのバッテリーパックの処理は、地方自治体の条例または規則に従ってください。



お願い

・スタンバイ機能を実行しても、バッテリーパックを取りはずすとスタンバイ機能が無効になるため、データは消失します。データを保存し、Windowsを終了してから、バッテリーパックを取りはずしてください。

1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る

休止状態を実行して電源を切り、バッテリーパックの取りはずし / 取り付けを行うこともできます。

⇨ 休止状態 ⇨ 「2 章 3 電源を切る」

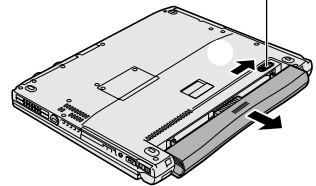
2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 ディスプレイを閉じて、パソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら、バッテリーパックを取りはずす

ゆっくり引いてください。

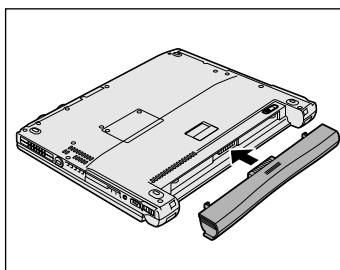
バッテリー・リリースラッチ



⚠ 注意 ・バッテリーパックは、無理な力を加えずに静かに取りはずしてください。いきおいよくはずすと、バッテリーパックが足の上などに落ち、思わぬケガのおそれがあります。

5 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む

バッテリー・リリースラッチが左へ移動します。



注意 ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく装着されていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

2 バッテリーを節約する

バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

バッテリーの充電を完了（フル充電）する

バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく

スタンバイ機能または休止状態を活用し、こまめに電源を切る

スタンバイ機能や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、以前の状態を再現することができる機能です。

☞ スタンバイ機能 / 休止状態

☞ 「5章 1 消費電力を節約する」

パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

☞ パネルスイッチ機能 ☞ 「2章 3 電源を切る」

省電力に設定する

☞ 省電力設定 ☞ 「5章 1 消費電力を節約する」



メモ

・DynaBook SS (DS60P) の場合、バッテリー駆動時、CPU は 500MHz 相当の周波数で動作します。600MHz で動作させる場合は、AC アダプタの接続が必要です。

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	作業の前に	80
2	機能を拡張する	81
3	PC カードを使う	86
4	フロッピーディスクを使う	90
5	USB 機器を接続する	96
6	i.LINK (IEEE1394) 機器を接続する	97
7	メモリを増設する	100
8	大容量バッテリーを使う	104

1 作業の前に

周辺機器の組み合わせにより、本製品の可能性は大きく広がります。この章では、周辺機器の接続について説明します。本書で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け / 取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業してください。



注意

- ・ホットインサージョン（パソコン動作中の取り付け / 取りはずし）が認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。電源を入れたまま接続すると、感電・故障のおそれがあります。
- ・パソコン本体に周辺機器を取り付けた状態で持ち運ばないでください。故障の原因となります。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業してください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業しないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさにあったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその後のサポートは受けられません。



メモ

- ・本書で説明している周辺機器や機能を使用するには別途市販の機器が必要な場合があります。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して接続してください。

- ・PCカードやコネクタの上下を合わせる
- ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める

周辺機器を使用するときは、このほかに作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をお読みください。



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 機能を拡張する

本製品右側面の拡張コネクタには、別売りのI/Oアダプタ、ミニI/Oアダプタ、マルチメディアポートリプリケータのいずれかを接続して使用することができます。



お願い

・上記の機器のいずれかを接続している場合、CRTディスプレイはパソコン本体ではなく、接続した機器側のRGBコネクタに接続してください。

I/Oアダプタ

I/Oアダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ

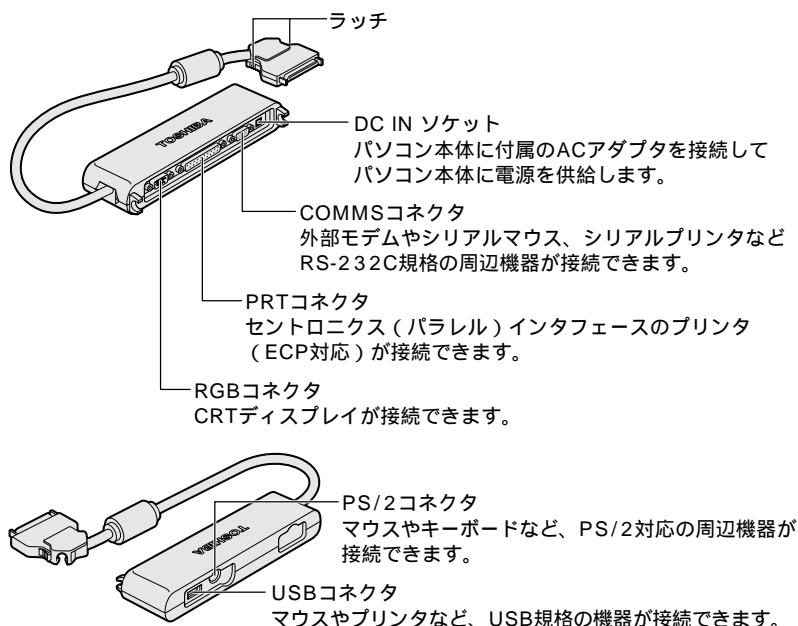
RS-232C規格の周辺機器（シリアルマウスや外付けモデムなど）

CRTディスプレイ

PS/2マウスやキーボード

USB規格の周辺機器

DC IN ソケットには、パソコン本体に付属の AC アダプタを接続して使用できます。AC アダプタと電源コードを接続すると、I/O アダプタを通して、パソコン本体に電源を供給することができます。

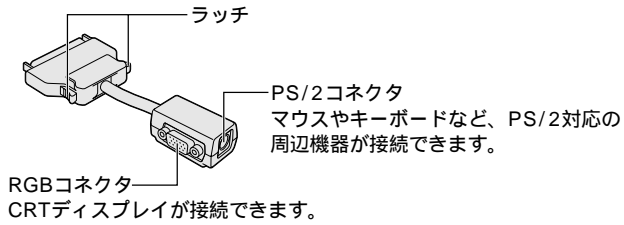


● ミニ I/O アダプタ

ミニ I/O アダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

CRT ディスプレイ

PS/2 マウスやキーボード



● マルチメディアポートリプリケータ



お願い

- ・パソコン本体にマルチメディアポートリプリケータを接続して使用する場合は、必ずマルチメディアポートリプリケータの電源コネクタに AC アダプタを接続してください。パソコン本体の電源コネクタに AC アダプタを接続すると、正しく動作しません。
- また、バッテリー駆動で使用すると、パソコンの電源が切れる場合があります。

マルチメディアポートリプリケータを接続すると、次のような使い方ができます。

AC アダプタを接続して、パソコン本体に電源を供給する

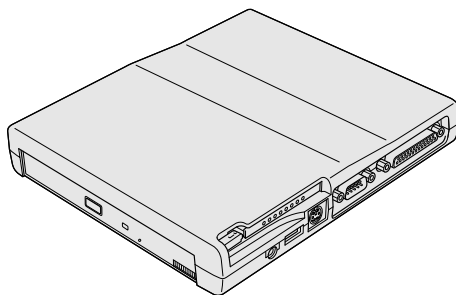
CD-ROM ドライブを使用する

ハードディスクドライブ（別売り）と交換できます。

周辺機器を使用する

- ・RS-232C 規格の周辺機器
- ・セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
- ・CRT ディスプレイ
- ・PS/2 マウスやキーボード
- ・USB 規格の周辺機器
- ・PC カード（Type または の CardBus 対応のカード）
- ・オーディオ機器


LAN に接続する



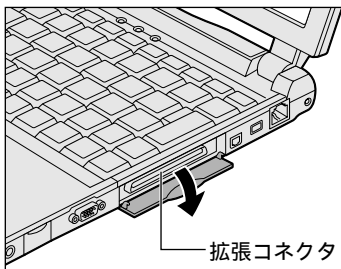
☞ 詳細について ☜ 『マルチメディアポートリプリケータに付属の説明書』

● 取り付け

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

 注意 ・パソコン本体に電源が入っている状態で、I/O アダプタ、ミニI/O アダプタ、マルチメディアポートリプリケータの取り付け / 取りはずしをしないでください。
故障の原因となります。

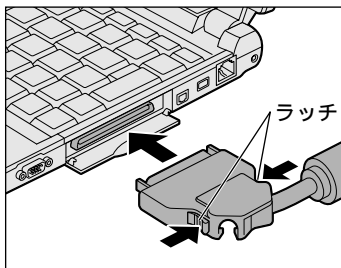
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開く



- 3 接続ケーブルのコネクタを、上下を確認し接続する

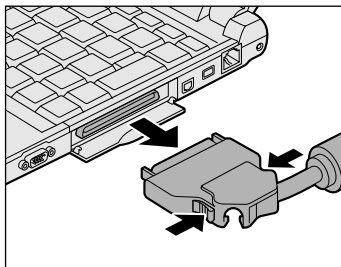
コネクタはラッチを押しながら取り付けてください。

*イラストはI/Oアダプタのケーブルです。

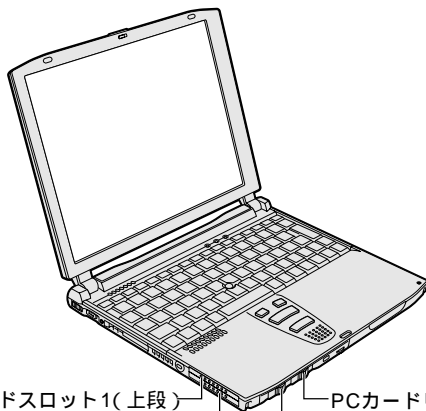


● 取りはずし

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 パソコン本体から接続ケーブルを取りはずす
コネクタのラッチを押しなが取りはずしてください。
ケーブルを引っ張らないようにしてください。
- 3 コネクタカバーを閉じる



PCカードスロットには、PC Card Standard TYPE / / (3.3V、5V)に対応したPCカードを2枚まで取り付けることができます(TYPE の場合は、1枚のみ)。



PCカードスロット1(上段)
PCカードスロット0(下段)

PCカードリリースレバー0
PCカードスロット0に入っている
PCカードを取り出します。

PCカードリリースレバー1
PCカードスロット1に入っている
PCカードを取り出します。



注意

・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから取り付けてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



メモ

・ホットインサクション

パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け/取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによっては、この機能に対応していないものもあります。

・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードと一緒に使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上段)	TYPE /
0 (下段)	TYPE / /

PC カードの例を次にあげます。

- ・モデムカード
- ・SCSI アダプタ
- ・フラッシュメモリ
- ・LAN カード
- ・CardBus 対応のカード



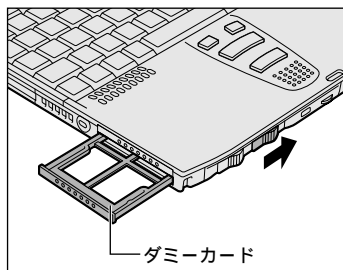
・スロット 0 に TYPE の PC カードを取り付けた場合には、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

『PC カードに付属の説明書』

取り付け

1 PC カードリリースレバーを右へスライドする

ダミーカードが出てきます。



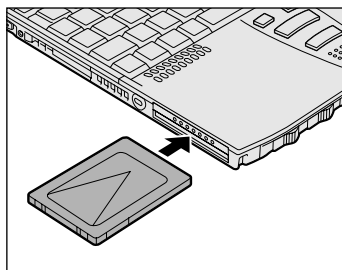
2 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。

3 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

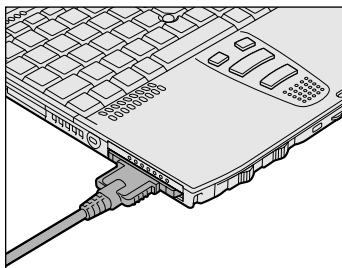
PC カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに、PC カードがつきあたるまで、静かに押ししてください。

PC カードが十分に押し込まれると PC カードリリースレバーが左に移動します。



4 PCカードにケーブルをつける

LANカードなど、ケーブルが必要なカードの場合は、ケーブルを接続してください。



カードを接続した後、カードを使用できる環境かどうかを確認してください。

☞ PCカードの環境の設定 ☞ 『PCカードに付属の説明書』

注意 ・ケーブルを取り付けたまま、持ち運ばないでください。ケーブルのコネクタが破損するおそれがあります。



お願い

・ケーブルを取り付けた状態で、ケーブルを強く引っ張らないでください。PCカードが抜けることがあります。

● 取りはずし


注意 ・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



お願い

・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから、取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する

タスクバーにある[ハードウェアの取り外し]アイコン()をダブルクリックする

表示される画面で終了するPCカードを選び、[停止]ボタンをクリックする
停止するPCカードを確認して、[OK]ボタンをクリックする

「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックする

[ハードウェアの取り外し]画面で[閉じる]ボタンをクリックする

- 2 PCカードリリースレバーを右にスライドする
カードが少し出てきます。
- 3 カードをしっかりとつかみ、引き抜く
- 4 ダミーカードを挿入する

4 フロッピーディスクを使う

本製品には、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブが用意されています。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

1 フロッピーディスク

● 使用上のお願い

フロッピーディスクは消耗品です。キズがついた場合は交換してください。フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。

フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。

汚れると使用できなくなります。

スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。

記録した内容が消えるおそれがあります。

直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。

本やノートなど重いものを上に置かないでください。

使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5 ~ 35	4 ~ 53

ラベルは正しい位置に貼ってください。

貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。

ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。

保管の際は、プラスチックケースに入れてください。

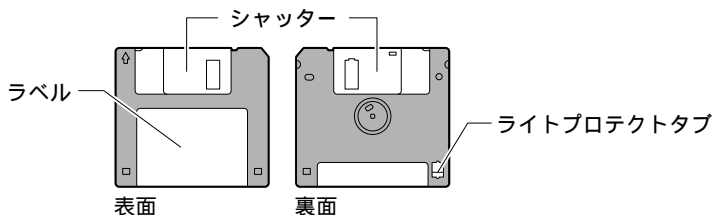
食べ物、タバコ、消しゴムのカスの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3.5 型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

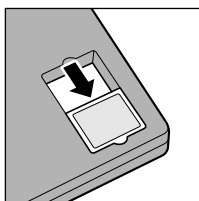
製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

● ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

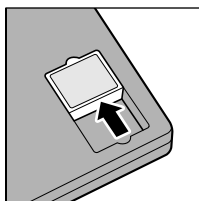


書き込み禁止状態



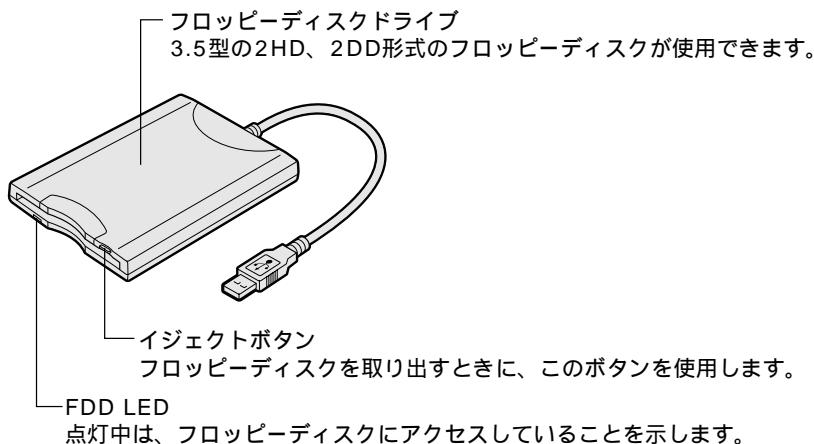
ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
データの読み取りはできます。

書き込み可能状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

② フロッピーディスクドライブ



● 使用上のお願い

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

フロッピーディスクドライブを、斜めや垂直、上下逆さまに置いた状態で使用しないでください。必ず水平に置いて使用してください。

データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブ、パソコン本体が壊れる可能性があります。

フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。

データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。

フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。

フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れたまま持ち運ばないでください。




注意 ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（フロッピーディスクドライブのLEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクドライブの取り付け/取りはずしの方法については「本章 5 USB 機器を接続する」をご覧ください。

● フロッピーディスクから起動する場合

フロッピーディスクから起動する場合は、次の設定を行なってください。

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックし、[東芝HWセットアップ]をダブルクリックする
[コントロールパネル]画面に[東芝HWセットアップ]アイコンが表示されていない場合は、画面左の[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。]をクリックしてください。
- 2 [USB] タブで [USB-FDD Legacy Emulation] を「Enabled」に設定する



メモ ・通常は [USB -FDD Legacy Emulation] を「Disabled」に設定しておいてください。
- 3 [Boot Priority] タブで [Boot Priority Options] を [FDD] が最初になるように設定する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

3 フロッピーディスクのフォーマット

新品のフロッピーディスクを使うときには、使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。

新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。



お願い

- ・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

● フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

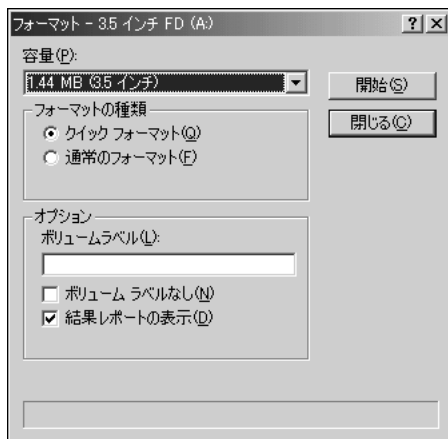


メモ

- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- ・2HD フロッピーディスクを2DD タイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・フォーマット形式は、2DD の場合は720KB、2HD の場合は1.44MB のみになります。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする
- 3 [3.5 インチ FD (A:)] のアイコンをクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。

- 4 [ファイル]メニューの[フォーマット]を選択する
- 5 フォーマット方法を選択し、[開始]ボタンをクリックする
未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。



(表示例)

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

- 6 [フォーマット結果]の内容を確認し、[閉じる]ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。
フォーマットを終了する場合は、[閉じる]ボタンをクリックします。

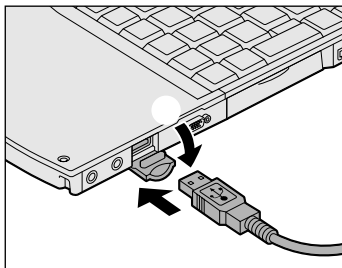
本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。

別売りの I/O アダプタまたはマルチメディアポートリプリケータを接続した場合も、USB 機器を使用することができます。

⇒ 「本章 2 機能を拡張する」

取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む
手順 2 が必要ない機器もあります。



- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。

取りはずし

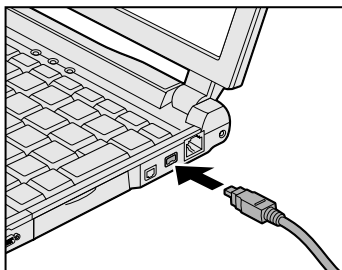
- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

⇒ USB 機器についての詳細 ⇒ 『USB 機器に付属の説明書』

本製品には、i.LINK (IEEE 1394) 規格の機器を取り付けることのできる、i.LINK コネクタが用意されています。

● 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む



お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なってありません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作を保証するものではありません。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) をご使用ください。
詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 2m 以上の長さのケーブルは使わないようにしてください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スタンバイ機能または休止状態が使用できなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け / 取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。その場合のデータ内容は保証いたしかねます。

「Ulead VideoStudio」について

デジタルビデオカメラからの映像の取り込み、編集を行うソフトウェアとして、「Ulead VideoStudio」をご用意しています。



メモ

・使用できるデジタルビデオカメラについては、次のホームページをご覧ください。

<http://www.ulead.co.jp/vs/comptvs4me.htm>

「Ulead VideoStudio」でデジタルビデオカメラをご使用になる場合、次のことに気をつけてお使いください。

「Ulead VideoStudio」を起動する前に、パソコン本体にデジタルビデオカメラを接続し、デジタルビデオカメラの電源を入れておいてください。デジタルビデオカメラの電源が入っていないと、接続についての警告メッセージが表示されます。

デジタルビデオカメラを接続して「Ulead VideoStudio」を使用している間は、デジタルビデオカメラの電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。接続についての警告メッセージが表示されます。

デジタルビデオカメラからの画像取り込みや書き戻しは、ACアダプタを接続した状態で行うことをおすすめします。コマ落ちが発生する場合は、ディスクの最適化を行うか、または他のアプリケーションを終了させてください。



メモ

・ディスクの最適化

[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[システムツール]-
[デフラグ]をクリック

デジタルビデオカメラから映像を取り込む際に、最初の数フレームがコマ落ちすることがあります。最初の数秒はストーリーボードモードで削るなどしてください。


映像をデジタルカメラから19分以上連続して取り込んだ場合、または静止画の取り込みがうまくいかない場合には、警告メッセージが表示されます。



メモ

・お使いのデジタルビデオカメラによっては、警告メッセージが表示されるまでに時間がかかる場合があります。また、警告メッセージが画面の背後に隠れている場合もありますので、[Alt]キーを押して表示画面を切り替えてください。

● 取りはずし

- 1 タスクバーの [ハードウェアの取り外し] アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く



メモ

・デジタルビデオカメラを取りはずすときは、手順 1 ~ 3 は必要ありません。

☞ i.LINK 対応機器についての詳細 ⇨ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』

7 メモリを増設する

本製品には、標準で 64MB のメモリが取り付けられています。増設メモリ（別売り）を使用することにより 192MB まで拡張することができます。



警告 ・説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一ふれると危険です。



- 注意**
- ・増設メモリを取り付け / 取りはずしする場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグとバッテリーパックを抜いてから作業を行ってください。またスタンバイ中または休止状態中は、増設メモリの取り付け / 取りはずしは、行わないでください。
電源を入れたまま取り付け / 取りはずしをすると、感電、故障のおそれがあります。
 - ・増設メモリを取り付け / 取りはずしする場合は、指をはさんだり、ぶつかけたりしないように注意してください。
 - ・パソコン本体の使用直後は、本体内部にふれないでください。本体内部が高温になっている場合があります、やけどをするおそれがあります。
増設メモリの取り付け / 取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
 - ・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。

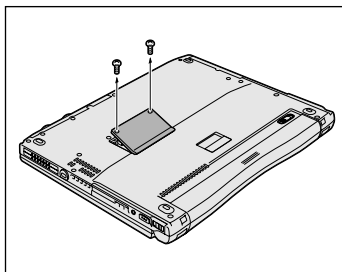


お願い

- ・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に、静電気を逃してから作業を行ってください。手近にある金属性のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・スタンバイ機能または休止状態を設定したまま増設メモリの取り付けを行うと、スタンバイ機能または休止状態は無効になります。
- ・増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

● 取り付け

- 1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- 4 増設メモリカバーのネジをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

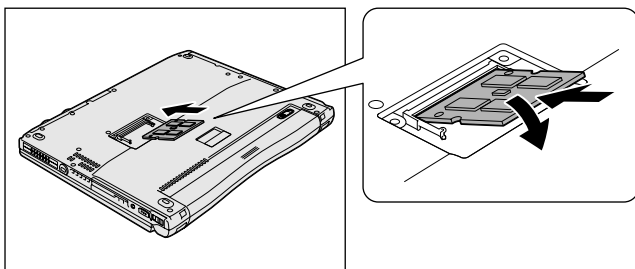
- 5 増設メモリカバーを取りはずす



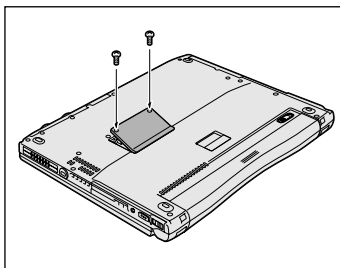
注意 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機械内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機械内部に金属類が入った場合は、電源を切りプラグを抜いて、お買い上げの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す

増設メモリのコネクタを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。



7 増設メモリカバーを取り付けて手順 4 ではずしたネジでとめる



8 バッテリーパックを取り付ける

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいか「PC 診断ツール」などで確認してください。

☞ 「PC 診断ツール」☞ 《オンラインマニュアル》

● 取りはずし



警告

・増設メモリを取りはずす場合は、必ず電源を切り、ACアダプタと電源コードおよびバッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。また、スタンバイ中または休止状態中は、増設メモリの取りはずしを行わないでください。

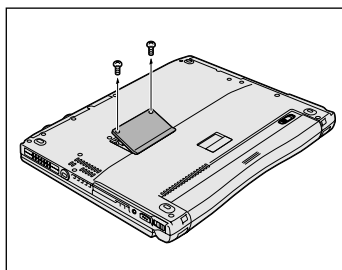
電源を入れたまま取りはずすと、感電、故障のおそれがあります。

1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

☞ バッテリーパックの取りはずし☞ 「3 章 1-4 バッテリーパックを交換する」

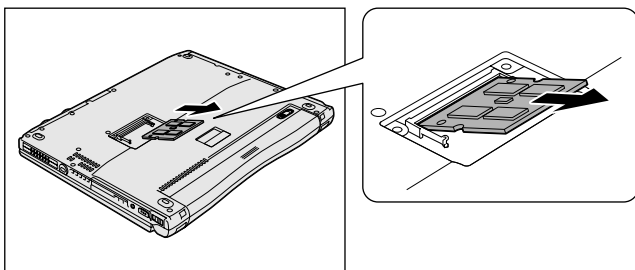
4 増設メモリカバーのネジをはずす

お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

5 増設メモリカバーを取りはずす**6** 増設メモリを固定している左右のフックを開き、増設メモリを増設メモリスロットから取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

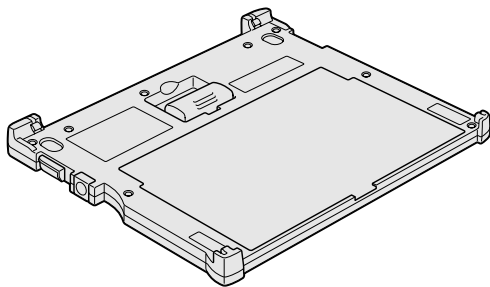
**7** 増設メモリカバーを取り付けて、手順4ではずしたネジでとめる**8** バッテリーパックを取り付ける

⇒ バッテリーパックの取り付け ⇨ 「3 章 1-4 バッテリーパックを交換する」

大容量バッテリーを使う

本製品には、標準添付のバッテリーパックのほかに、大容量バッテリー（別売り）が用意されています。

標準バッテリーパックと大容量バッテリーを同時に使用することにより、長時間バッテリー駆動で 사용할 ことができます。



充電方法、充電時間、バッテリー駆動での使用時間については、標準バッテリーパックとあわせて説明していますので、参照ください。

☞ 充電方法や充電時間 ☞ 「1章 4 バッテリーの充電」

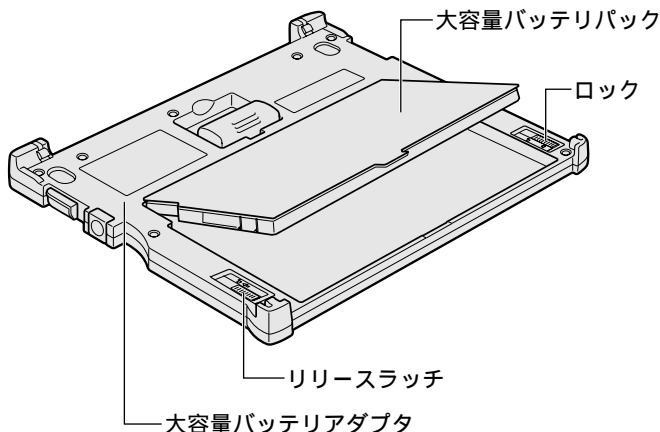
☞ バッテリー駆動での使用時間 ☞ 「3章 1-3- バッテリー駆動での使用時間」



お願い

- ・スタンバイ機能を実行しているとき、標準バッテリーパックと大容量バッテリーの両方を取りはずすとスタンバイ機能が無効になるため、データは消失します。

① 大容量バッテリーパックの取り付け / 取りはずし



● 取り付け

- 1** 大容量バッテリーパックを、大容量バッテリーパックアダプタに合わせて斜め上から差し込む
- 2** カチッと音がする位置にはめ込む
大容量バッテリーパック左のリリースラッチが手前に移動します。
- 3** 大容量バッテリーパック右側のロックを手前にスライドする
大容量バッテリーパックアダプタにロックされます。

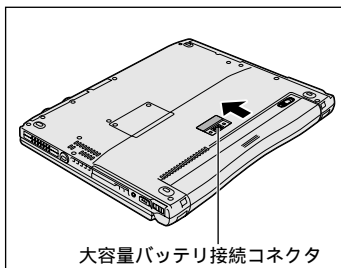
● 取りはずし

- 1** パソコン本体に大容量バッテリーを接続している場合は、パソコン本体の電源を切り、大容量バッテリーを取りはずす
☞ 「本節 2 パソコン本体への取り付け / 取りはずし」
- 2** 大容量バッテリーパック右側のロックを奥側にスライドする
大容量バッテリーパックアダプタへのロックが解除されます。
- 3** 大容量バッテリーパック左側のリリースラッチを奥側にスライドし、大容量バッテリーパックの手前を持ち上げる
- 4** 大容量バッテリーパックをしっかりとつかみ、手前に引き抜く

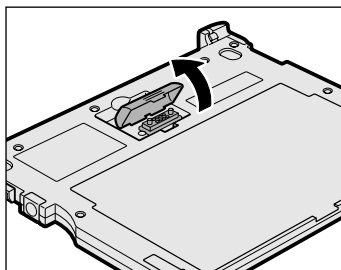
② パソコン本体への取り付け / 取りはずし

● 取り付け

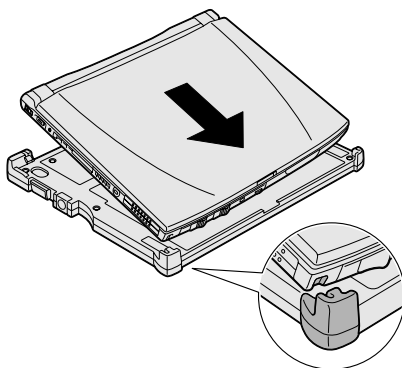
- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、大容量バッテリー接続コネクタのカバーを開く



- 4 大容量バッテリーのコネクタカバーを開く

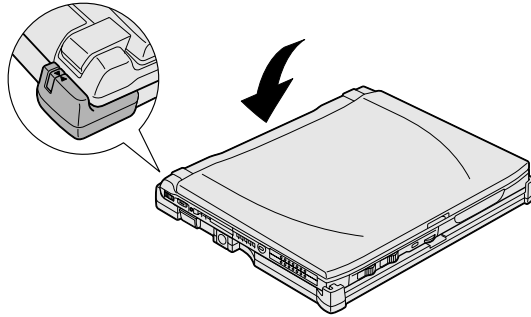


- 5 パソコン本体前面のへこみに、大容量バッテリーの両端のツメをはめる



6 パソコン本体の背面を押す

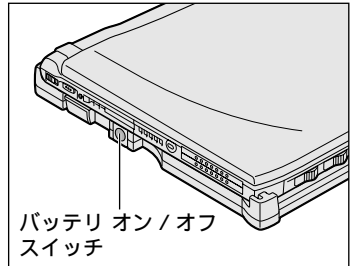
背面にある大容量バッテリーのラッチがはまるのを確認してください。きちんとはまると図のように▶と◀が重なります。



注意 ・大容量バッテリーはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときに大容量バッテリーがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

7 大容量バッテリーのバッテリー オン / オフ スイッチを押す

スイッチがへこみ、大容量バッテリーが使用可能な状態になります。

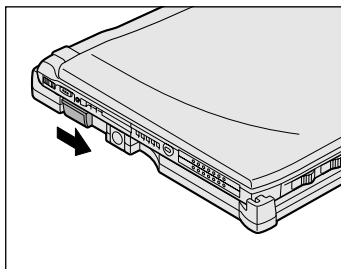


● 取りはずし

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす

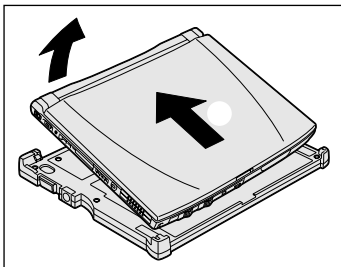
- 3 イジェクトレバーをスライドする

パソコン本体が少し持ち上がります。
レバーは大容量バッテリーの背面にあるラッチがはずれるまできちんとスライドしてください。へこみに指を合わせると楽にスライドできます。



- 4 大容量バッテリーからパソコン本体を取りはずす

パソコン本体の背面中央を上を持ち上げます。



- 5 パソコン本体の大容量バッテリー接続コネクタのカバーを閉じる
- 6 大容量バッテリーのコネクタカバーを閉じる

5

便利な機能

- 1** 消費電力を節約する 110
- 2** インターネットに接続する 116
- 3** 電子メールを使う 131
- 4** 東芝 HW セットアップ 138

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。「東芝省電力ユーティリティ」を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

Windows では使用目的や環境に合わせて電源管理に関する設定を行うことができます。

例えば、会社で事務に使用する場合はすばやくコンピュータ処理を実行したい、外出先でバッテリーを使用する場合は少しでも長い時間使用したいと思うでしょう。それらの使用環境を記憶し、簡単に変更できれば便利です。このような複数の使用環境を省電力モードとして設定したり、省電力モードの切り替え機能を提供します。


省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

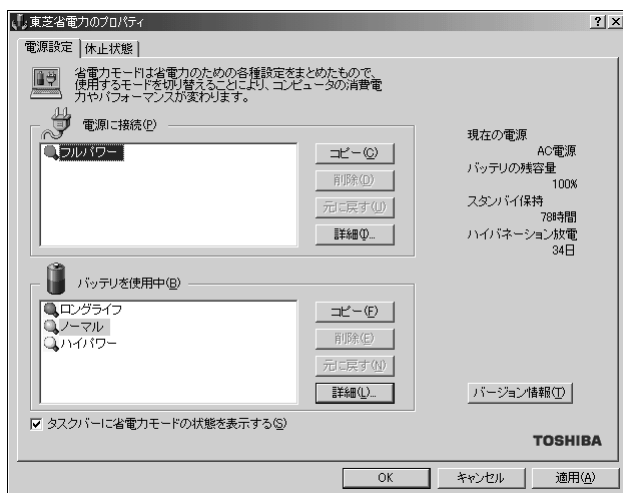
起動方法

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [東芝省電力]をダブルクリックする

[コントロールパネル]画面に[東芝省電力]アイコンが表示されていない場合は、画面左の[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。]をクリックしてください。

タスクバーの省電力アイコン()をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中] には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中] は AC アダプタに接続している / していない状態によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の 4 つの省電力モードが用意されています。すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
☞ 作成した省電力モードの詳細設定 ☜ 「本項 省電力モードの詳細設定」

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。



メモ

・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

● [休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックします。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。



×

- ・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリーのみで使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



メモ

- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。



お願い

- ・次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使い方をしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、電池交換のとき
 - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け / 取りはずしをしたとき

休止状態

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には動きません。



お願い

- ・休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・休止状態中に増設メモリの取り付け / 取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・休止状態が有効 ([東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている) の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

電源オフ

Windows を終了して電源を切ります。

スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

インターネットとは、世界中のコンピュータを接続する巨大なコンピュータネットワークです。

企業、学校、プロバイダなどの小規模のコンピュータネットワーク同士が接続して、世界規模のコンピュータネットワークとなっています。

インターネットに接続すると、世界中のコンピュータに好きな時間にアクセスできるので、距離や時間を越えたコミュニケーションがインターネット上でできるようになります。



メモ

・プロバイダ

パソコンとインターネットの接続サービスを提供する会社です。正式には「インターネットサービスプロバイダ」といいます。個人でインターネットを利用する場合、どこかのプロバイダに入会する必要があります。

インターネットへ接続するためには次のものがが必要です。

電話回線または PHS、携帯電話など



メモ

- ・PHS、携帯電話で接続するには別途接続用機器が必要です。
- ・より高速な通信を行いたいときはISDN回線をおすすめします。ISDN回線をお使いになる場合は、市販のターミナルアダプタ（TA）が必要です。

モデム

本製品に内蔵されています。

ブラウザ（アプリケーション）

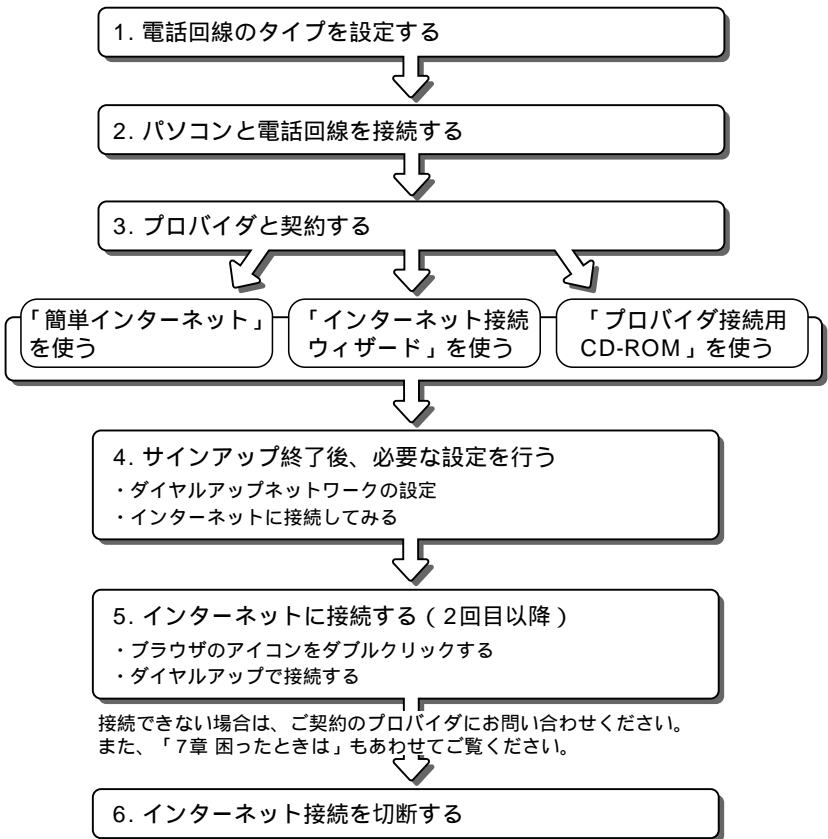
インターネットエクスプローラ

本製品には「Internet Explorer」が用意されています。

PPP 対応接続用ソフト

本製品には Windows に標準で付属しているダイヤルアップネットワークが用意されています。

ここでは、設定について次の流れで説明します。



1 電話回線のタイプを設定する

1 お使いの電話回線のタイプを確認する

プッシュ式電話機をお使いの場合、ダイヤルボタンを押したときに出る音で電話回線のタイプを確認してください。

パルス ... ダイヤルボタンを押すと「ブツブツ」と音がするプッシュ式電話機、
ダイヤル式電話

トーン ... ダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がするプッシュ式電話機、
ISDN 回線をご使用の場合



メモ

・電話回線のタイプが不明な場合は、ご契約の電話会社にお問い合わせください。

2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックし、

[テレフォニー]アイコン()をダブルクリックする

[コントロールパネル]画面に[テレフォニー]アイコンが表示されていない場合は、画面左の[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。]をクリックしてください。

3 [所在地情報]タブで、必要な設定を行う



(表示例)

[外線発信番号]

外線番号をかけるときに必要であれば入力する

ダイヤル先が市内のときは [市内通話]、市外のときは [市外通話] に必要な番号を入力する

[ダイヤル方法]

手順 1 で確認したタイプ (パルスかトーン) をチェックする

4 [OK] ボタンをクリックする



・外線発信番号について

「0」などをダイヤルしてから外線につなぐ場合、その数字や記号を半角で入力します。

外線番号に続けて「, (カンマ)」を入力すると、カンマ1個につき約2秒間のダイヤル待ち時間を設定できます。うまくつながらない場合は、「0,」「0,,」のようにカンマをつけて、ダイヤル待ち時間を長くして試してみてください。

② パソコンと電話回線を接続する

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。

内蔵モデムは、ITU-T V.90 および K56flex に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 または K56flex 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されません。



注意

- ・内蔵モデムは使用できる国や地域が限定されます。指定以外の国、地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる国や地域をよくご確認ください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN 回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。



お願い

- ・モジュラーケーブルの取り付け / 取りはずしは、パソコンの電源を切った状態で行ってください。
- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
- ・雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラー - ジャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

本製品の内蔵モデムは、次の国で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

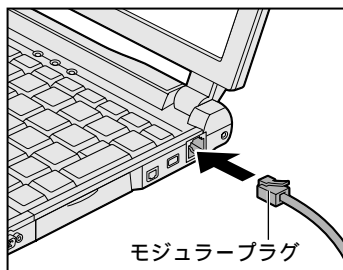
また、公衆回線網の通信規格は各国により異なりますので、ご使用になる国にあわせて内蔵モデムの国設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

☞ モデムの国設定

⇒ 《オンラインマニュアル-内蔵モデム用国選択ユーティリティ》

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。

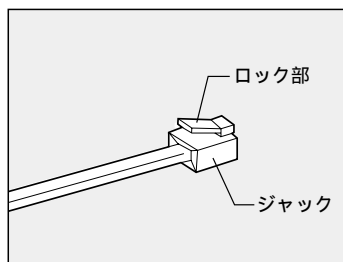


2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ(TA)またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

● 取りはずすとき

取りはずすときは、モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグのロック部分を押さえながら抜きます。



③ プロバイダと契約する

プロバイダに入会するには、オンラインサインアップで入会する方法と、書類をプロバイダから取り寄せ、郵送やFAXなどで入会する方法があります。



メモ

- ・オンラインサインアップ
プロバイダへの入会契約をオンラインで行うことです。契約するとすぐにプロバイダのサービスを利用することができます。
- ・オンラインサインアップで入会するには、ほとんどのプロバイダでクレジットカードの番号などが必要です。クレジットカードをお持ちでない場合は、各プロバイダにお問い合わせください。


ここでは、オンラインサインアップで入会するときの方法をいくつか説明します。

操作が簡単な「簡単インターネット」を使った方法をおすすめします。

また、「インフォペッパー infoPepper」または「AOL」と契約する場合は、あわせて『インターネットに接続しよう!』をご覧ください。詳しい説明があります。

「簡単インターネット」を使う

プロバイダの一覧から簡単に選択することができます。

- 1 デSKTOP上の [簡単インターネット] () アイコンをダブルクリックする
メッセージが表示されます。
- 2 パソコンと電話回線が接続されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

3 必要な内容を設定する



(表示例)

[プロバイダー一覧]

入会したいプロバイダをチェックする

[ダイヤル方式]

「本節-1 電話回線のタイプを設定する」で設定したタイプにチェックがついているか確認する

[外線発信番号]

「本節-1 電話回線のタイプを設定する」で設定した番号になっているか確認する

4 設定が終了したら、[接続開始] ボタンをクリックする

選択されたプロバイダ専用の接続画面が表示されます。表示される内容に従って、オンラインサインアップを行なってください。

● 「インターネット接続ウィザード」を使う



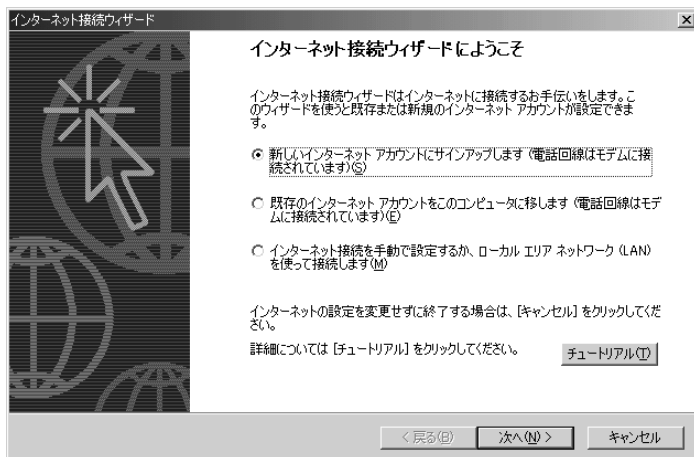
メモ

・「インターネット接続ウィザード」は一般の電話回線（アナログ回線）からのみ接続できます。

PHS、携帯電話、ISDN などからは接続できません。

1 [スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[通信]-[インターネット接続ウィザード]をクリックする

画面が表示されます。



2 表示される画面に従って設定を行う

● プロバイダ接続専用 CD-ROM などを使う

あらかじめ入会したいプロバイダの接続ソフトが収録してある CD-ROM などを入手しておきます。

1 パソコン本体に CD-ROM をセットする


2 表示される画面に従って設定を行う

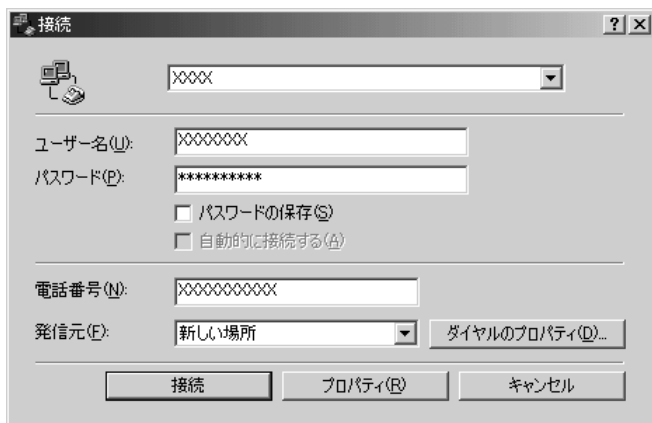
④ プロバイダと契約後、必要な設定を行う

プロバイダとの契約が終了した後、プロバイダによっては、パソコンへの設定が必要です。プロバイダによって設定内容は異なりますので、詳細が不明な場合は、プロバイダにお問い合わせください。

● 接続する前に

接続する前に、次の内容を入力または確認することをおすすめします。接続先や発信元に関する内容です。すでに設定されている項目もあります。

- 1 [スタート]-[設定]-[ダイヤルアップネットワーク]をクリックする
- 2 [XX(接続先)]アイコン()をダブルクリックする
- 3 [接続]画面で必要な設定を行う



(表示例)

[ユーザー名][パスワード]

プロバイダから指定されたユーザー名、パスワードを入力する



メモ

・[パスワードの保存]をチェック()すると、次回以降接続するときにパスワードの入力が不要になります。

[電話番号]

接続先の電話番号を確認する

サインアップで選択したアクセスポイントの電話が表示されます。正しいか確認しましょう。

[発信元]

手順 4 に進んでください。

- 4** [ダイヤルのプロパティ] ボタンをクリックする
発信元の情報を設定します。



(表示例)

[登録名]

発信元に名前をつける

新たに発信元を追加する場合は、[新規] ボタンをクリックします。

発信元の切り替えは、[登録名] の ボタンをクリックして選択します。

[国名 / 地域][市外局番]

発信元の国や市外局番を入力する

[所在地からの通話]

外線発信番号、ダイヤル方法があっているか確認する

- 5** [ダイヤルのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

以上で設定は完了です。

● インターネットに接続してみる

設定が完了したら、実際にインターネットに接続してみます。

1 [接続]画面で、[接続]ボタンをクリックする




(表示例)

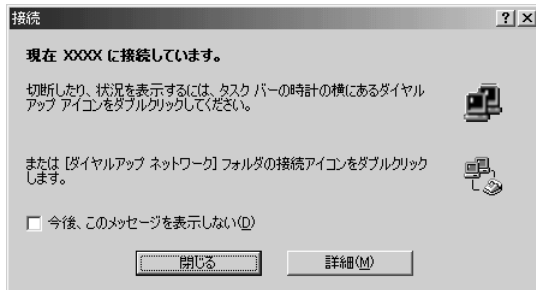
インターネットへの接続が開始されます。

接続中は次のような画面が表示されます。しばらく時間がかかる場合もあります。



(表示例)

接続が成功すると、次の画面が表示され、タスクバーに接続中アイコン()が表示されます。




(表示例)

2 内容を読んで [閉じる] ボタンをクリックする

これでインターネットへの接続は完了です。

● ホームページを見たいとき

デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコン () をダブルクリックすると「Internet Explorer」の画面が表示されます。アドレスを入力したり、検索機能を使って好きなページを見てみましょう。

● メールの送受信をしたいとき

メールの送受信をするには、初めに設定が必要です。

☞ 電子メールの設定について ☞ 「本章 3 電子メールを使う」

5 インターネットに接続する (2 回目以降)


プロバイダとの契約やパソコンの設定が完了している場合の接続方法です。あらかじめパソコンと電話回線が接続されているか確認ください。

☞ 接続方法 ☞ 「本節 2 パソコンと電話回線を接続する」

インターネットに接続する場合は、[接続] 画面から必要な情報を入力または確認します。

ここでは [接続] 画面を表示する代表的な方法を説明します。

● 方法 1 - ブラウザのアイコンから接続する

1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコン () をダブルクリックする


[接続] 画面が表示されます。

2 画面の内容を入力または確認し、[接続] ボタンをクリックする


● 方法 2 - ダイヤルアップアイコン () から接続する

1 [スタート] - [設定] - [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする

[接続] 画面が表示されます。


2 [XX (接続先)] アイコン () をダブルクリックする

3 画面の内容を入力または確認し、[接続] ボタンをクリックする

接続されるとタスクバーに接続中アイコン () が表示されます。




メモ


- ・接続先を追加した場合は、ダイヤルアップアイコン () は接続先の番号ごとに作成されます。接続する場所に応じて番号を使い分ける場合には、わかりやすい名前をつけると切り替えが簡単です。

6 インターネット接続を終了する

代表的な切断方法を説明します。

接続が切断されると、タスクバーの接続中アイコン () が消えます。


方法 1

- 1 タスクバーの接続中アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [切断] をクリックする



(表示例)

方法 2

- 1 タスクバーの接続中アイコン () をダブルクリックする
- 2 [切断] ボタンをクリックする



(表示例)



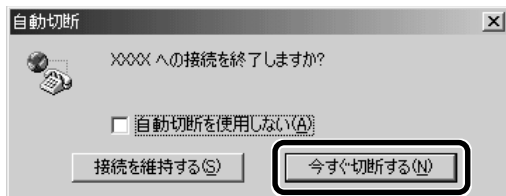
メモ

- ・回線状況などの影響で、実際の接続状態は表示されたスピードより遅い場合があります。

● 方法 3

「Internet Explorer」が表示されている場合です。

- 1 「Internet Explorer」画面右上の閉じるボタン **×** をクリックする
- 2 [今すぐ切断する] ボタンをクリックする



(表示例)

電子メールとは、インターネット上でやりとりする「手紙」です。郵便の手紙と比べて料金が安く、世界中どこでも短時間でつきます。また電話などと違い、時間を気にせず送ったり、受け取ったりできます。さらに画像や文書ファイルなどデジタルデータもメールと一緒に送れます。「Eメール(Electric Mailの略)」や、「インターネットメール」、「メール」と呼ぶこともあります。本書では「メール」という言葉を使用します。

1 メールのおしくみ

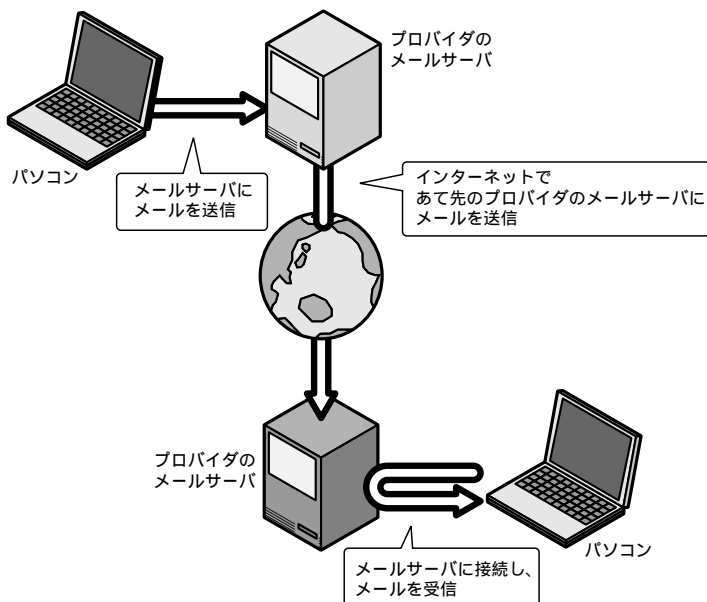
パソコンで作った文章や画像などのデータを送ると、電話回線を介してプロバイダのメールサーバに届きます。プロバイダのメールサーバは、あて先のプロバイダのメールサーバにデータを送ります。データを受け取ったプロバイダは、受信者別にメールを整理して保存します。受信者は、プロバイダのメールサーバに接続し、自分あてに届いたメールを受け取り、これをパソコンに保存します。このように、メールは、自分の都合に合わせて送受信することができます。



メモ

・メールサーバ

メールの配信サービスを提供するコンピュータのことです。メールの配信では、送信のために利用されるSMTPサーバと、届いたメールを保存し、受信者が取りにくるのを待つPOPサーバの2種類があります。



② 必要な設定を行う

本製品にはメールソフト「Outlook Express」が^{アウトルックエクスプレス}プレインストールされています。

ここでは「Outlook Express」を使った場合について説明します。そのほかのメールソフトを使う場合は、『メールソフトに付属の説明書』をご覧ください。

ここでは、すでにプロバイダへの入会が完了している場合について説明します。

☞ プロバイダへ入会していない場合 ☞ 「本章 2 インターネットに接続する」また、ここで説明している内容は一般的な手順です。詳細が不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

初めてメールを使うときは、プロバイダのメールサーバの種類やメールサーバに接続するアカウント名、パスワードの設定が必要です。次の手順で行ってください。

1 デスクトップ上の [Outlook Express] アイコン () をダブルクリックする

Outlook Express が起動すると、[インターネット接続ウィザード] の [名前] 画面が表示されます。

[名前] 画面が表示されない場合は、Outlook Express 画面で [メールアカウントの設定] をクリックしてください。

2 [表示名] に名前をローマ字で入力し、[次へ] ボタンをクリックする

ここで入力した名前が、メールを送信したとき [送信者] に表示されます。



[インターネット電子メールアドレス] 画面が表示されます。

3 [既存の電子メールアドレスを使用する] をチェック () した後、メールアドレスを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

メールアドレスはプロバイダから割り当てられているメールアドレスを半角英数字で入力します。

[電子メールサーバー名] 画面が表示されます。

6 電子メールサーバ名を設定し、[次へ] ボタンをクリックする

受信メールサーバ、送信メールサーバの種類は、ご契約のプロバイダによって異なります。プロバイダから送付された書類をご確認のうえ、入力してください。

[インターネット メール ログオン] 画面が表示されます。

7 アカウント名とパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

[アカウント名] には、ユーザ名を入力します。ユーザ名とパスワードは、プロバイダとの契約時に決まります。

プロバイダから送付された書類をご確認のうえ、入力してください。

インターネット接続ウィザード

インターネット メール ログオン

インターネット サービス プロバイダから提供されたアカウント名およびパスワードを入力してください。

アカウント名(A): XXX

パスワード(P): *****

パスワードを保存する(S)

メール アカウントをアクセスするときに、インターネット サービス プロバイダがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を必要としている場合は「セキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を使用する」をオプションとしてください。

セキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を使用する(S)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

[設定完了] 画面が表示されます。

8 [完了] ボタンをクリックする

以上で設定は完了です。

● オプションの設定

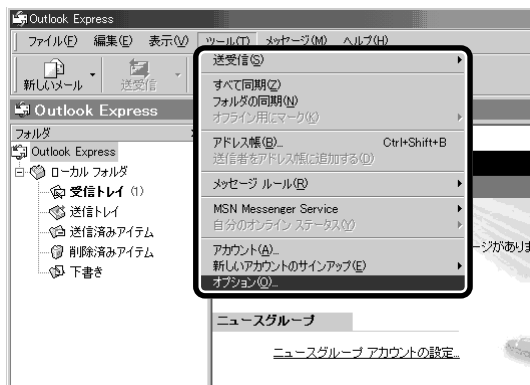
メールを便利に使うための設定をご紹介します。



メモ

・オプションの設定は必ずしも行う必要はありません。お使いの状況に応じて、必要な項目のみ設定することもできます。

1 メニューバーの [ツール] をクリックし、表示されたメニューから [オプション] をクリックする

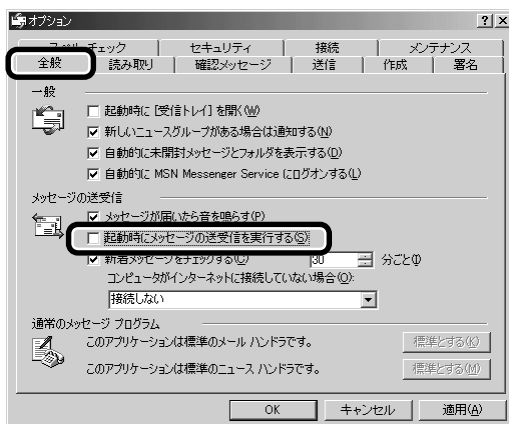


(表示例)

2 [全般] タブの [メッセージの送受信] で [起動時にメッセージの送受信を実行する] のチェックをはずす

この設定を行うと、「Outlook Express」を起動した時点では、自動的に電話回線に接続されません。

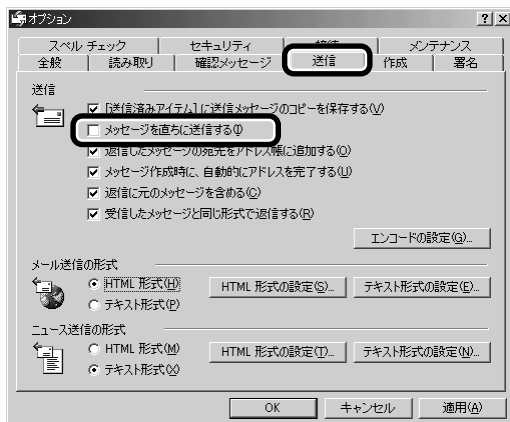
メールの送受信を行う時だけメールサーバに接続する設定になります。



(表示例)

3 [送信] タブの [送信] で [メッセージを直ちに送信する] のチェックをはずす

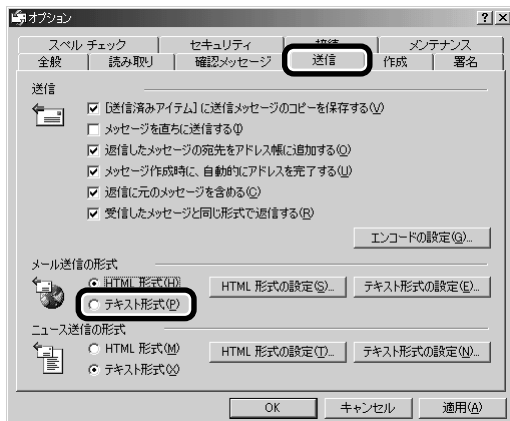
この設定を行うと、メールを書いた時点では送信せず、いったん送信トレイに保管します。電話回線に接続したとき、メッセージの送受信をまとめて行う設定になります。



(表示例)

4 [送信] タブの [メール送信の形式] で [テキスト形式] をチェック () する

HTML形式で送信した場合、相手のメールソフトがHTML形式に対応していないときは、文字化けしてしまい、メッセージが正しく表示されません。どのメールソフトでも読めるようにするには、テキスト形式で送信します。



(表示例)



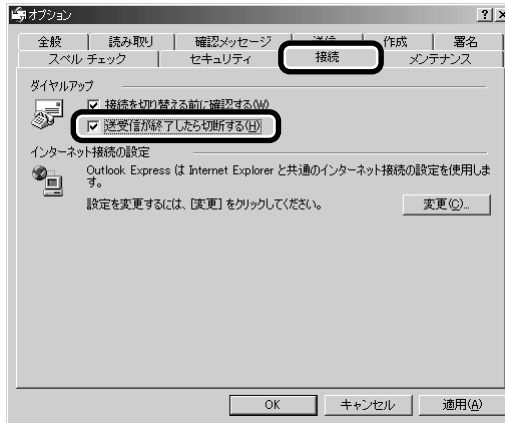
メモ

・文字化け

文章が意味不明な文字の羅列で表示され、読めない状態のことで、データのやり取りをするパソコンやアプリケーション同士の設定が異なる場合などによく起こります。

5 [接続] タブで [送受信が終了したら切断する] をチェック () する

送受信が完了したら、自動的に電話を切る設定になります。



(表示例)

6 [OK] ボタンをクリックする

以上で基本的な設定は完了です。

4 東芝 HW セットアップ


東芝 HW セットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする
[コントロールパネル]画面に[東芝 HW セットアップ]アイコンが表示されていない場合は、画面左の[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。]をクリックしてください。

また、詳細については東芝 HW セットアップのヘルプをご覧ください。

● ヘルプの起動方法

- 1 [東芝 HW セットアップ] を起動後、**?** をクリックする
マウスポインタが  **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にマウスポインタを置き、クリックする